

第239回 令和8年5月29日（金）

「生物の死について。」

東京大学の小林教授の講演を聞きました。「生物が死ななければならない理由」について、とてもわかりやすい説明でした。新書もベストセラーになっています。小林先生は神奈川外語短大付属高校（現在の横浜国際）出身ということでした。

私の理解ですがRNAや、それが安定したDNAなどの遺伝子は変異することがあり、より環境に適した遺伝子が生き残ります。このため常に古い遺伝子は消去される必要があります。これが「死」です。

ある遺伝子が不老不死だったら変異した新しい遺伝子が生き残っていくことができません。私たち生物は遺伝子の「乗り物」であり、古くなると捨てられて新車に乗り換えられるようなイメージだと思います。いつまでも古くならず永遠に乗り続けられる車ができてしまったら新車が作られなくなってしまいます。

そうやって生物は進化を繰り返してきました。乗り物に過ぎない人類は不老不死を求めて様々な研究をしてきました。古代中国の皇帝が「水銀」を不老不死の薬と信じて飲み続け命を落とした話は有名です。

最近「老化」は病気の種類であるとして老化する原因を取り除く研究が盛んにおこなわれています。人間の平均寿命は80代に達しましたが、それでも最高年齢は120歳が限界のようです。現在記録に残っている最高年齢は122歳とのこと。これは昔から変わっていないそうです。

もし不老が達成されたら、ほとんどの人は若いまま120歳近辺で突然亡くなるのかもしれませんが。「死」が生物の進化のための重要なファクターだとしたら不老だけ達成されることは果たして幸せなのでしょうか。

老化することをポジティブに考えるのは難しいと思います。それでも若くて元気がありあまっている状態で「死」を迎えることも残酷なような気がします。植物と同じで枯れていくことも必要なのかもしれません。

人生経験を積み、年を取って死を迎えることは種のバトンを次の世代に託すことです。人間にとって正しいことだと思います。永遠に生きられたら時間の大切さを忘れてしまい、人生のありがたみがなくなってしまうでしょう。有限な命だからこそ大事にするし、輝くのではないのでしょうか。